

退治された猿婿・隠岐郡知夫村仁夫

令和4年3月8日

収録・解説・酒井 董美

イラスト・福本 隆男



語り手 中本マキさん（明治39年生まれ）
収録・平成6年8月25日

あらすじ

昔、お父さんとお母さんとおりましたが、そのお父さんは山猟師で、毎日、猟をしに出かけていました。お母さんもついて行っていました。お父さんが離れた間に、大きな猿がお母さんを引っ張って逃げてしまいました。お父さんは犬を一匹飼っていましたので、その犬だけ連れて帰って暮らしておりました。

お父さんと犬がお母さんを探ねて、山へ行ったら、一軒家に猿が、お母さんと暮らしておりました。

猿は野山へ出て何かの芽を拾ったりして留守でした。そこへお父さんが、行ったもので、お母さんは、「ここに居ら、殺される。おまやあ帰れ」と言いました。

しかし、お父さんは、「仇取らにや帰られの」と言つて聞かないし、

どこかへ隠れておつたがええだら」と言う。するとお母さんも、

「ほんなら、戸棚へでも隠れなさい」とお父さんを戸棚へ隠しました。

戸棚には節穴がありまして。お父さんは狩をする鉄砲を持っていて、節穴から弾を込めて撃つように入れておりました。犬は入り口の白の下に隠しておいたそうです。

猿が帰ってきて、猿股立てで囲炉裏にあたっていましたが、

「今日は人臭い。人がおりやせんか」と言いましたが、お母さんは、

「人はおりましえん。わしが人だけん臭いだわい」と言いました。猿は、

「どうも人臭いから、だれか呼んで来て見てもらえ」と言います。

「わしが人だけけん、臭いだわい」とそのお母さんが言いますが、

「おまえとは違つて臭い」と猿は言います。

隣の家には、チョッコウリンという名の猫が住んでいました。

猿はいよいよ気になったので、

隣のチョッコウリンを呼んで、

「隣のチョッコウリンを呼んで、

「隣でもらえ」と言うので、それを呼んできて押ましたら、その猫が、

「おまゝ、そのごんべのは、だ。みなで帰つたそうな。」

おればチョッコウリンも相伴に遭う。

つき白返せば、子猿に当たると言うが早いから、とんで逃げたそうです。

猿がその意味が分からず、不思議だのう、まあ、「おればチョッコウリンも相伴に遭う。つき白返せば子猿に当たるとして、もう何のこともやら」と思つて考えちよつところを、戸棚の節穴からねらつていて、お父さんが鉄砲を撃つて、その猿を殺してしまい、そのお母さんと犬も連れて、みなで帰つたそうな。

まあ、そのごんべのは、だ。

解説

猿が人間の女性を奪つて妻にするという変わったものである。この話はいくらか閑敬吾著『日本昔話大成』を調べてみても、この戸籍に属するものが無い。ただ類話と思われる話として、浜田市三隅町で聞いた話（に狒々が人間の女性を奪つて妻にしたが、本来の夫と連れてきた犬に殺される。そして猫に当たるのが浜田市の話では狐になつていたのである。）

（元島根大学法文学部教授）